

かば桜学園だより

～北本市学校4・3・2制 小中一貫教育推進校～

令和6年7月
かば桜学園発行
第1号

「かば桜学園(西中・石戸小)」では、令和6年度から「伝え合う力を高めるための指導・支援の工夫」を研究主題に掲げ、研究に取り組んでいくこととしました。これまでの実践を継続しつつ、学習指導要領で求められる資質・能力を児童生徒が高められることができるよう、研究を深めていきます。引き続き二校合同の研修会や授業研究会にも取り組んでまいります。

また、今年度も「かば桜学園だより」を発行し、二校合同の実践や小中それぞれの実践、児童生徒の交流・活動の様子をお知らせいたします。本号では、研究の方向性や1学期の教職員研修についてお伝えします。

研究概要

研究主題「伝え合う力を高めるための指導・支援の工夫」

<副題>

石戸小 国語科を軸としたファシリテーションによる授業改善

西中 互いの立場や考えを大切にしながら自らの言葉で適切にやり取りできる生徒の育成を目指して

【設定理由】

かば桜学園で、これまで行ってきた様々な交流行事は、いわゆる中1キャップ解消のために、一定の成果を保ってきました。9年間の教育には、カリキュラムマネジメントの一貫した柱が必要です。令和3～5年度の学校課題研究では、「学級づくり」に焦点を置き、「社会性と情動の学習」の研究に取り組み、ASSESSを取り入れSEL-8Sプログラムを小・中学校共に特別活動のカリキュラムに組み込んだことは、大きな成果となりました。今後の学校課題研究も、かば桜学園カリキュラムのさらなる発展や蓄積を目指していきたいと思えます。

現在のかば桜学園の課題を踏まえると、多様な状況に応じて他者と共同(協働)する学習者主体の学び(ファシリテーション)を構築していくことが、学力向上や豊かな心を育むことにつながることを考えます。また、「伝えあうこと」を通して、基礎的・基本的な知識、技能や自己有用感を高め、一人一人のウェルビーイングの向上も目指していきたいところです。

中教審が目指すべき「令和の日本型学校教育」の姿を「すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」と示しているように、令和の日本型学校教育では、個別最適な学習と協働的な学習を推奨しています。児童生徒一人一人の「伝えあう力」を高め、異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出すこと、自己理解・他者理解から得られる自己肯定感を高めることで、個別最適な学びと協働的な学びの実現を果たしていきたいと考えました。

以上の理由から、本学園の令和6年度以降の研究テーマを「伝え合う力を高めるための指導・支援の工夫」とし、各学校において、共通理解を深めながら、研究を進めていきます。

【めざす児童生徒像】

石戸小 互いの立場や考えを大切にしながら適切にやりとりできる児童
西中 互いの立場や考えを大切にしながら自らの言葉で適切にやりとりできる生徒

★右のQRコードで、各校のホームページにアクセスできます。ぜひご覧ください。



西中



石戸小

各部の活動内容・取組

学習指導部

<石戸小>

①伝え合う力を高める取組の検討

- 伝え合う力の土台となる話す力、聞く力、語彙力を向上させる取組の検討
- 伝え合う場を設定することを検討

②伝え合う力の到達目標の作成

- 伝え合う力の4・3・2の到達目標を設定し、目標達成に向けての取組を検討していく。

<西中>

◆「伝え合い6か条」の検討

- 仲間とともに学ぼうとする意欲を育み、学力向上の基盤となることをねらいとする。
- 生徒たちがどんな意見でも聴き入れてもらえるという安心感のもと、発表ができるようにする。
- 「話し手」と「聞き手」の両視点から検討して作成した。

学習環境部

<石戸小>

①温かい集団づくりを目指した取組

- ASSESSを生かした学級づくり
- 社会性と情動の教育(SEL-8S)の計画

②保護者・地域への情報発信

- かば桜学園だよりの発行、配付

③職員研修の企画・運営

- ファシリテーション研修の実施(夏季休業中)
- ※ファシリテーション…人々の活動が容易にできるよう支援し、うまくことが運ぶよう舵取りすること。(出典：日本ファシリテーション協会)

<西中>

◆「伝え合い6か条」の掲示物作成

- 生徒に約束事として身につけさせるだけでなく、教職員もともに「伝え合い6か条」に共通認識を持ちながら取組を進めていくことをねらいとする。
- 掲示物を作成し、教室掲示をする。(2学期より実施)

調査研究部

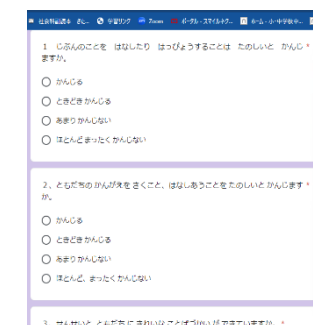
①児童の意識調査の実施・分析・考察

対象学年：小学校1年生～中学3年生
実施時期：6月・3月(小学1年生は3月のみ)
実施方法：学習用端末による回答
質問項目数：12項目

②埼玉県学力学習調査の分析・考察

研究主題に関する質問項目の分析、考察。
対象学年：小学4年生～中学3年生

学習用端末による意識調査



第1回小中合同研修会

